# LUZ の熊野古道案内

2008年 7月 上 7月1日 ~ 16日

je2luz.exblog.jp

## 目次

## 2008年 7月

- 7月 1日 田舎の昔猫 1
- 7月 2日 昔猫 2
- 7月 3日 本日休稿 猫写真のみ
- 7月 4日 昭和の子供
- 7月 5日 月例報告 広報くまの 恐るべきからくり
- 7月 6日 昭和の子供 2
- 7月 7日 昭和の子供 3
- 7月 8日 五月雨の・・・
- 7月 9日 草いきれ
- 7月10日 昭和の老人 1
- 7月11日 昭和の年寄り 2
- 7月12日 昭和の風習 いただき
- 7月13日 平成の子供 夏祭り7月14日
- 7月14日 平成の子供 大きい子は?
- 7月15日 平成のおじさん

### 熊野の旅 田舎の昔猫 1

前にもちょっと触れましたが、昔の百姓家では『猫』の居る家が多かったものです。 今の『ペットブーム』のような物ではなく、日本の田舎に根付いた風習のような物でした。

西洋ではネズミ捕りを犬に任せる所もあるようですが、日本の農家ではその係りは 『猫』です。

野鼠に困っていた西洋に比べ、日本の農家が困っていたのは『家ねずみ』が多かったのです。

ちょいと小振りで建物の中に住み着き、梁の上などを走り回る『家ねずみ』を捕れるのは『猫』の方でしょう。だから、日本の農家では『猫』が居ることが多かったのです。

今だと、米も『玄米』で保管され、鉄製の保管庫や米専用の冷蔵庫に入れられていて、ねずみは手も足も出ないことが多いのですが、昔は『籾』(もみ)の状態で俵に入れて保管しました。

籾の方がうんとかさばるのですが、年を越して保管した時の味の落ち方が少なくて済んだのです。でも、ねずみの格好のねらい目になったのです。

猫は本当にねずみを捕るのか?

猫によります。

上手い猫と下手な猫では随分違います。

根気のない猫ではねずみなど捕れません。

トムとジェリーのように追い掛け回してねずみを捕るなんてありませんからね。

平で広い場所にねずみが出てくることなどほとんどないですから、猫はねずみの通路でひたすら息を殺して待ち伏せします。そして、用心深いねずみですら安全だと思って通りかかったときに一撃でしとめるのです。

待ち伏せしている猫に声を掛けても、耳を動かすだけで返事もしなければ振り向きもしません。大きな声で呼びかけると。『そんな声を出したら、もう捕れないでしょう!』と叱られます。

まあ、あまり捕らない猫でも、猫が居るだけで台所までねずみが進出してくることは防げますから、少しは役立っていたわけです。

今の人は、『猫がねずみを捕る』のを見たことがないかもしれませんね。

キャットフードをふんだんに与えられていて、たんぱく質やカルシウムも足りているし、お腹も空いていない猫はねずみを捕らないことが多いですからね。

昔の猫は全くその逆で、たんぱく質やカルシウムの補給は自前になりました。

食卓に魚が並んで、そわそわ待っていても、昔の人はアジもサンマも骨ごと食べちゃいましたからねえ…廻ってくるのは骨を食べない子供の分や、わざわざ残してくれた頭だけです。ねずみやイナゴを捕って食べないと…



カメラは オリンパス35\$1.9

Tags: 昭和 熊野市 モノクロ

by **je2luz** | 2008-07-01 12:58

2008年 07月 02日

## 熊野の旅 昔猫 2

昔の猫の続きです。

私の育ったの大又川が山にさえぎられ大きく迂回する、カーブの内側に位置する全部で十数戸の小さな集落でした。

山間部にしては、平らな所でほんの少しの傾斜しかなく、字名も『平』(だいら) と呼ばれています。

切り立っては居ますが低い裏山沿いにほとんどの家が並んでいて、半世紀たった今も、『道』が『道路』になり、田圃が圃場整備事業でものすごく人工的に変わっただけで、家の並びや建物はほとんど変わっていません。



他から少し独立したようなこの集落では『犬』は居ませんでした。半数以上の家に 『猫』がいました。

川向には『鉄砲持ち』が居たので紀州犬が飼われていましたが、こちら側には犬は 必要なかったのです。

猫だけの集落なので、猫同士のバランスだけ取ればよいし、田舎なので隣家との間にはスペースがあるので猫どもは伸び伸びしていましたね。

猫の仕事は、悪者のねずみを捕ることでした。他には蛇だとかトカゲだとかすずめなど動く物は片っ端から遊び道具にしていました。

鳥など捕るのが大好きな猫も。自分の家で飼っているニワトリのヒョコは襲いませんでした。

中には『馬鹿猫』も居ますから、ひよこを捕ってこっぴどく叱られたようですがね。 写真に出てくる『黒』と言う猫などは、ヒョコがちょろちょろ走り回ると、縁側から優しい顔をしてずっと眺めていましたね。

ヒョコが居る時の親鳥は気が立っていますから、近づくと突っつきに来ますしね。 牛、ニワトリ、ネコが上手くバランスを取って暮らしていたものです。

我が家の『黒』は雌でしたが体も大きく喧嘩が強かったので、ボス的役目もしていたようです。

家が集落の入り口に近く、山と川の間が狭い部分なので、家の石垣の上から見張っていると、人間でも犬でもネコでも目に入ります。

見える範囲は自分の縄張りだと思っていましたから、相手が犬でもものすごい勢いで追い払いに行きました。

『黒』の縄張りだと知っている『犬』は見つかると一目散に逃げて帰った物です。 猟犬ですから喧嘩をすれば勝負にならないはずですがね。

このように、犬も放し飼いでうろついているので、ちゃんとバランスをとって生活していたようです。

一番バランスをとりにくいのが人間同士だったのかもしれません。



カメラは オリンパス35\$1.9

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by je2luz | 2008-07-02 11:09

2008年 07月 04日

## 熊野の旅 昭和の子供

ネコと同じ時期…昭和32年(1957)ごろからは近所の子供などの写真が手元にあります。

この頃には山間部の田舎と言っても、昭和の大合併で南牟婁郡飛鳥村から熊野市に変わっていました。

時代と言うものの流れは恐ろしい物で、半世紀前の風物は、ネガから起しなおした 写真でも『古くさい』物になります。

それは、『田舎』と言うだけではありません。昭和38年(1963)に東京高田馬場で撮った子供の写真も古くさいですからね。そして、憧れたはずの『小百合ちゃん』の古い映画を見ると恥ずかしいほど『芋くさい』のも同じだと思います。



この時代には、このようにして弟の面倒をお姉ちゃんが見る、妹の面倒をお兄ちゃんが見る、居ない時は近所の子供やいとこが見る…これが当たり前でした。

一緒に家の中でゲームをして遊ぶのではなく、連れて歩いて、おんぶして…本当に 面倒を見たわけです。

ちょいと年が離れれば「おしめ」も換えていましたね。

私は末っ子ですからそうした面倒は見ることはありませんでしたが、小さい時はうんと年上の番長に引き連れられて遊んでいました。泳ぎもその番長に教わったのです。泳げないのに皆が対岸に渡ってしまう時は、おんぶして泳いで渡してくれたのも覚えています。

少し大きくなると、年下のガキどもを引き連れることになりましたしね。

『いじめ』と言うものも無くはありませんでした。

いつの時代にも『いじめっ子』は居ましたからね。

ただ、無茶苦茶執念深くやるわけでもなし、年ゆきの子が居ますから、手加減しないと叱られたものです。

喧嘩にもルール、いじめにもルール、遊びにもルール…それが、代々伝承され、子供の中で守られてきたのでした。

おやつがあるわけでもなし、こぎれいな服を着せてもらえるわけではなし、まして おもちゃなんてほとんど買って貰えなかったし、お腹をすかせることも多かった時代 ですが、子供が幸せだった時代でしょうね。

でも、私たちを含めこの世代が親になったときに、子供にやたらと物を与え、育てそこなったようです。

カメラは オリンパス35\$1.9

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by je2luz | 2008-07-04 10:35

2008年 07月 05日

## 熊野の旅 月例報告 広報くまの 恐るべきからくり

今月も『公報くまの』が配られてきました。 いつもの恐ろしい数字を転載します。

お誕生 7 おくやみ 23

5月11日~6月10日

人の動き

人口	20.860人	(-46)
男	9.735	(-14)
女	11.125	(-32)
世帯数	10.173	(-19)

相変わらずすごいです。

一年間の出生数から考えると **80** 人ほどです。 4 0 人学級でも 2 クラスから 3 クラス分ですね。

これを旧熊野市だけでも 13 校ある小学校にばら撒くと・・・

理想的な『少人数学級』ですね。日教組とかの目指す日本はこんな物だったのでしょうね。

自然は豊かだし…ゲームセンターや風俗営業の店やラブホテルもないし…

この中で注目すべきは、平成の大合併の掛け声の中で、馬鹿金をかけて吸収合併した、旧南牟婁郡紀和町です。

過疎の町とは言え、ひとつの地方自治体だったわけです。

町全体が『限界集落』になってきているのですが、年間通しても生まれるのは数人 あればよい方です。

ここに来て、日本のほとんどの田舎がそうであるように、住民の寿命の延びが限界に達して、お年寄りのなくなることが急激に増えています。

とりたてて、風邪が流行ったわけでも食中毒があった訳でもありませんが、



今月の数字はお誕生 O、おくやみ 8 です。おくやみの方では一番若くて 74 歳ですから順番には問題ありませんね。

平成の大合併で、地方自治体の数が 3300 から 1000 ほど減りましたね。

こうして減った地方自治体の中には、この旧紀和町のようなものがたくさん含まれて居ます。

『廃村』が目の前に迫った『限界自治体』が地図の上でも統計の上でも消えたのです。 問題が解消したのではなく。水で薄めて消し去ったのです。

石原産業並の手法でややこしい物を見えなくしたわけです。

そして、合併しても **21.000** 人ほどしかない『昭和の新市』をそのまま『市』として認めて残したのです。 すごいからくりですね。

三重県南牟婁郡熊野村にしちゃうと、色んな面倒を見なくてはならないし、『村』 が日本中に増えたのでは格好も悪いでしょうしね

入学式は寂しくても、『初盆の施餓鬼』は賑わうでしょう。

でも、あと 10 年余りすると、その『初盆の施餓鬼』に集まる人も居なくなりますね。

共同墓地の管理者は『熊野市』になっているものが多いのですが、そろそろ『無縁 仏係』でも置かなくてはならないのではないでしょうか?

Tags: 熊野市 昭和 モノクロ by je2luz | 2008-07-05 11:30

2008年 07月 06日

## 熊野の旅 昭和の子供 2

昭和と言う御代はものすごく長いので一くくりにするのは難しいですね。

今の日本ではやっと成人に達した世代の下と、後期高齢者の中の上のほう以外は全部昭和生まれですからね。

ここで言う『昭和の子供』とは戦中・戦後の混乱期から日本がまだ貧しかった頃の子供と言うことになります。

都会ではどんな時代のも『お嬢様』や『お坊ちゃま』と言う種族がいたのですが、 押しなべて田舎では貧乏くさい子供が多かったものです。

一年生と言えば、学生服を買ってもらえたとすれば。『二回り』は大きいだぶだぶの物でした。お兄ちゃんの居る家では、そのだぶだぶを着古した、お下がりのだぶだぶを着ていました。

私が物心付いた時には『農地解放』が済んだ後で、『小作農』が居なくなって、ものすごく小さな『自作農』だらけの時代でした。

日本中の農村を民主的に全部貧乏にした時代だったわけです。

一部の子供は家の手伝いに追われることもあったのですが、ここ紀州は所得的には 昔も今も全国の底辺を這っているのですが、少し温暖な気候に助けられ、寒冷地東北 などに比べると追い詰められた生活から逃れられていました。

今よりうんと寒くて、栄養も不足気味なので、冬になると子供の手にはヒビ・アカ ギレが一杯あったものです。それでも、ちょこっとの炭でコタツを入れれば十分暖か い地方ですからね。

そんな小汚い子供が一杯うろついていたのは昭和 30 年代に入る頃までですね。 朝鮮戦争を契機に復興の勢いが加速して、こんな田舎まで変わってきたからでしょう。

子供たちの服装がうんときれいになって、鼻水をたらして、冬なのに素足にぞうりなんて光景は消えてしまいましてね。

少し小奇麗になってきてもどこか田舎くさい子供がやはり多かったですね。全国が 均質化していなくて、田舎が田舎らしく。子供が子供らしい時代の最後の方がこの時 代でしょう。

腹がヘルから、ご飯が楽しみでおいしい…盗んで食べる『柿』がおいしい…『サツマイモ』は生でもおいしい…

物を食べて『おいしい』と思えるときは、少し位お腹を空かせても『幸せ』を実感できると言うことです。

つまり、その時代は今の子供にはない『幸せ』に包まれていたわけです。



昭和32年の今頃ですね。

子供の服も随分小奇麗になっています。

七夕飾りを持って学校から帰る子供です。

後ろの倉庫は『○通』・・・日本通運の取次ぎ所です。

こんなド田舎にまで中継所を置くほどこの会社の独占体制が強かった時代ですね。 金の延べ棒事件の少し前ですね。

カメラは オリンパス35\$1.9

Tags: 昭和 熊野市 モノクロ

by je2luz | 2008-07-06 11:10

2008年 07月 07日

## 熊野の旅 昭和の子供 3

テレビがあるわけでなし、ゲーム機があるでなし…おもちゃもそんなにあるわけでなし…かといって、さほど勉強するわけでもなし…

暇な時間はたっぷりあったわけです。

石ころ、棒切れ、板切れ、道端の木や石垣…皆遊び道具に変えてゆかないとやることが無くなります。

同じ物が飛行機になったり自動車になったり船になったり人間になったり…思いつくものに化けました。

物語りは自分たちで作らないと RPG のように既製品のものはありません。

想像力が豊かで、創作力のあるものが遊びをリードしたものです。

変なゲームやアニメで残忍な物とか破壊だけのものなんてのを物心付く時から刷り込まれている今の子供より、一見汚くて悪ガキ風の昔の子供の方が少しはやさしいところもありました。

少なくとも、『人を殺しちゃいけない』『殴られたら痛い』『死んだらお終い』くらいは分かっていました。

前にも書いたように、戦争ごっこが大好きで、ちゃんばらも大好き、ギャング物も 大好きで、ばったばったと敵をなぎ倒しながら進んでいても、間違っても生身の人間 を殴り倒したりはしませんでした。

子供は叱られて当たり前…だったのです。

親だけではなく、大人全部が叱りましたね。

いつから、世の中の大人が子供に遠慮するようになったのでしょうね?

大やネコでも飼い主や周囲が遠慮すると、履き違えて始末の悪い物になってしまいます。



それ以上に悪知恵も発達している人間のガキはどんどんおかしくなりますね。 昔は通学途中とか近所には『怖いおじやん』や『うるさいおばやん』が居た物です。 そんな人が居ないと、昭和の子供でも畑の物を引っこ抜いたりする悪い遊びを考え 付くやつが一杯居ましたからね。

この写真の後ろを見てください。

後ろの納屋の屋根に石が乗っています。

この頃まではこの地方の屋根には『杉皮葺き』の物が残っていました。

神社のように厚く葺くのではなく、薄く葺いて細い丸太で押さえ、その丸太を川原から拾ってきた平べったい石で押えていたのです。昭和 30 年代頃に『トタン屋根』に代わって行きました。

回りに一杯あったはずの『皮葺きの屋根』の写った物がほとんどありません。 右の建物が『牛小屋』ですね。

カメラは オリンパス35\$1.9

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by je2luz | 2008-07-07 11:06

#### 2008年 07月 08日

### 熊野の旅 五月雨の・・・

五月雨の 降り残してや 光堂

平泉・中尊寺が世界遺産落選だそうですね。

私が平泉を訪れたのは、昭和38年7月だったと思います。

**45**年前の平泉は、芭蕉の句や切手(**1954**)で有名でしたが、観光地としてはまだまだ、『みちのく』の未開発の所でした。

天気が悪く、薄暗くて、誰も居ない『さや堂』のなかで、薄ぼんやり輝く『金色堂』 を眺めた記憶があります。

金色堂より、奥州藤原三代のミイラのほうに興味をそそられたのも覚えています。

石見銀山の時にも書きましたが、日本中を『世界遺産登録』しようと言う動きには ユネスコもあきれ果てているでしょう。

候補地それぞれ、能書きも立派ですし、『それも有りかなあ…』と、思わせるところがあります。

更に更に…

『熊野古道』が『世界遺産』になれたのなら、『おらが所も!』と、思って当然でしょうね。

故事来歴、お宝鑑定なら漠然と山の中にわずかに残る細切れの山道よりは整った所が多いですからね。

大峰山がよいのなら、月山も羽黒山も…

きりが無いです。

後ろに透けて見えるのは、『世界遺産便乗公共事業』なんて利権までありますしね。 国立公園・国定公園・国宝・重文・天然記念物… お墨付きが好きですねえ…

『熊野古道』並に『奥の細道』を『日本の侘び・寂びを具現化したもの』とか言うことで指定してもらえば本州の上半分くらいがすっぽり指定地に入るのに…

そうでないなら、『国際遺産』なんてのを日本で作って指定するとか…

ふざけているのではなく、貧乏な日本と言う観点からの見直しが必要な所に来ているでしょう。

探せばどこかに 45 年前の平泉のネガがあるかもしれませんが、探すのも大変なので、こちらの旧国道の写真を載せて起きます。

こちらは、さしずめ…

しずかさや 岩にしみいる せみのこえ

のような静けさの中で段々草に占領されかけています。



カメラは クラウン・グラフィック+フジナー150mm

Tags: 世界遺産 熊野古道 モノクロ by **je2luz** | 2008-07-08 12:10

2008年 07月 09日

## 熊野の旅 草いきれ

梅雨も終わりに近づき、随分蒸し暑い季節になりました。

緑の多い紀州は南の方でも結構涼しい所です。

熊野古道歩きに来られ、里に入ると、今は松並木なども無いので炎天下の行軍になります。

しかし、熊野古道が古道らしく見える場所はほとんどのところが、杉や桧の林の中で涼しくなります。

いくらうっそうとしていても、これは『原生林』ではありません。

周囲にある雑木山も、里山ですから『原生林』では無いのがほとんどです。

半世紀前までは『薪炭材料』として、定期的に伐採管理されていた物です。それが、 『薪』も『炭』も使われなくなって放置されて数十年になり、原生林風になっている だけです。

昭和30年代には貨車に積まれて、大阪や名古屋、果ては東京にまで出荷されていたのですが…

手入れの行き届いた林の中は風通しも良く真夏でも涼しい物です。

『一風の涼』と言うものですね。座って休めばすぐに体が冷やされます。

しかし、手入れの行き届かない林の中や山際の草原の所では、『草いきれ』でものすごく蒸し暑い物です。

足元の地面から立ち昇る水蒸気と葉っぱから蒸散する水蒸気でものすごい湿気があります。ここは気温以上に暑いものです。

『草いきれ』には独特のにおいがあるものです。

谷川や用水路のそばの『水のにおい』なども田舎のにおいでした。

そんな中で育ったのに、最近ではあまり嗅ぐことがないですね。

中途半端な町暮らしに慣れてしまったからでしょうね。



この道路、今では舗装されています。

昔の国道で、昭和25年ごろでしょうかね、使われなくなった物です。

地道の方がムードがあるのですが、多雨地帯の山道ですから、舗装しておかないと 路面が流されてしまい、すぐに使えなくなるのです。

昔の道は石で畳んで流れなくしたのですが、今は色気のないアスファルトで道を守っています。

カメラは クラウン・グラフィック+フジナー150mm

Tags: 昭和 熊野古道 モノクロ by je2luz | 2008-07-09 13:29 |

2008年 07月 10日

## 熊野の旅 昭和の老人 1

昭和中期の日本人はどれくらいまで生きられたのか調べていませんが、今より随分早く死んだようですね。

私が小学校の頃でしょうか???『敬老会』が『婦人会』の世話で始まりました。 その頃には『還暦』を迎える、満60歳から招待されていました。

つまり…その年齢が年寄りの入り口だったわけです。

定年退職も50歳とか、うんと長い所で55歳だったわけですから、定年して五年 も十年もすれば立派な年寄りですよね。

その時代には年や立場に応じて、いろんな意味できちんと区別されていましたね。 呼び方も女の人の場合、『あま』…『むすめ』…『よめ』…『かかあ』…『おば』 …『ばばあ』…『おおばば』と階段を上がりました。

階段をもぼり損ねると、『ゆかず』とか『でもどり』を経由して、終盤に合流する ことになりました。

いまでも、呼び方はそこそこ段階を踏んでいるようですが、身なり服装に関しては乱れてしまったようです。

戦前から戦後しばらくまでは、呼び名に応じた身なり・服装をしていた物です。

今だと、既婚者と未婚者どころか『あま』も『むすめ』も『よめ』も…はては『かかあ』、『おば』まで同じような格好で歩き回っていますからね。

格好がそうですから、それに応じて心根もそれに応じて変わって行ったものなのですが、いまでは服装に応じたように心根も変化しにくくなっているようです。

まあ、その分だけいつまでも若く居られるのでしょうが…



写真は私の祖母で、この時(昭和32年)に68歳くらいかと思います。

子供から見ると、自分の親はうんと大人で、祖父母はうんと年寄りだと思うわけですが、こうして写真を見ると、この時代の68歳は本当に『大年寄り』だったのですね。

いまだと、80歳を越えないとこんな格好はしませんね。

カメラは オリンパス35\$1.9

Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by je2luz | 2008-07-10 11:41

2008年 07月 11日

## 熊野の旅 昭和の年寄り 2

半世紀ほど前のお年よりは今のお年寄りより信心深かったように思いますね。 自然死ではない戦争による死者が身の回りに沢山居たのも信仰心を厚くした一つ の要因でしょうね。

第二次世界大戦、太平洋戦争、大東亜戦争…呼び方は色々ありますが、戦死者の割合は田舎のほうが多いですからね。



この写真は熊野市飛鳥町の本乗寺の檀家が寒行の一日を、八丁坂を徒歩で越え、新鹿まで出かける風景です。山道を 10Kmほど歩く行程ですが、お上人に続く隊列には結構年寄りが居ましたね。年寄りと子供がお寺に集まるって感じでしたからね。

もっとも、子供がお寺に集まったのはお供え物のお下がりがもらえる可能性が大きかったからですがね。



このおばあさんで幾つくらいだったのでしょうね。 そんなに大年よりではなかったはずなのですが…

後ろの堤防とかの様子では、新鹿の今の国道311号線、郵便局のあるあたりでしょうね。

それにしても…お上人の向きとおばあさんの向きとバラバラですね。

この八丁坂越えは結構急な山道ですが、牛車用の石畳の九十九折の道が明治時代に作られて飛鳥側には残っています。徒歩の場合はそれを貫くようにショートカットしたソマ道を使います。

この頃には、新鹿で捕れた魚を樽に入れて山越えで飛鳥まで売りに来る魚屋がいました。もちろん、全行程徒歩です。

一年のうちで300日は通ってきたでしょうね。

今は県道新鹿佐渡線がトンネルで結ばれ、車ですっと行けるようになりました。 従って、この旧八丁坂の峠を越す人は居なくなりました。

昭和の中頃だと熊野古道より八丁坂越えの方が良く使われていましたね。

カメラは オリンパス35\$1.9

Tags: 昭和 熊野古道 モノクロ

by je2luz | 2008-07-11 11:39

2008年 07月 12日

## 熊野の旅 昭和の風習 いただき

昔、道が狭く、階段も多かった頃、そして、一輪車などと言うものもなかった頃には、物を運ぶのは **100**%人力の仕事でした。

『担ぐ』『背負う』『さげる』『担う』…など腕や肩の力を使うやり方は今でもやる方法です。

この方法は腕・肩・腰の力と足の踏ん張る力がかなり必要です。

それでも、昔の人は当たり前にこれをやっていましたから、取り立てて力持ちでなくても 20 Kg や 30 Kg そこらの荷物は重いとも思わずに持ったものです。一人前の男なら 60 Kg くらいでふらついたら恥ずかしかった物です。

女の人も、今のようにベビーカーとか自家用車なんてありませんから、子供が出来ると同時に、子供を背負って出かけるのが当たり前になり、結構重いものを運ぶのに慣らされて行ったものです。

子供も田舎だと小さい時から百姓仕事の手伝いをさせられて体を鍛えて行ったのです。

今は一部の漁師町とか、アフリカや南米の国とかにしか残っていない運搬方法ですが、荷物を頭に載せて運ぶ方法が各地でやられていました。

この辺では『いただき』と呼んでいましたが、頭に載せると、背骨に垂直に荷重が かかるので上げてしまうと無理のない方法なのです。

長い時間運ぶのにも適しているので、男に比べ力のない女の人の運搬方法としてよく使われました。

『魚売り』をはじめ薪や木材まで『いただき』で運んだ物です。花を乗せて売り歩けば『大原女』なんですがねえ・・・

頭の天辺は丸いですから、物を載せると安定しませんし、すぐに骨ですから痛いです。それを防ぐため、わらなどでドーナツ状の輪を作り布でカバーしたものを用意して、まずそれを頭に載せ、ヨイショ!とその上に荷物を乗せて運ぶわけです。

なれた人だと、バランスをとって乗せますから、両手を離しても大丈夫で、すたすた歩きます。

このあたりでは昭和40年ごろまではこうした『いただき』で魚を売りに来るおばさんが普通に見られたものなのですが、それがリアカーになり…そのうちに『魚売りのおばさん』自体が居なくなってしまいました。

まして、普通の人が荷物を頭に載せて運ぶなんて見られなくなりました・・・と言うより、『いただき』が出来る人も居なくなったのでしょうね。



Tags:熊野市 昭和 モノクロ

by **je2luz** | 2008-07-12 09:30

2008年 07月 13日

## 熊野の旅 平成の子供 夏祭り



京都では祇園さんが始まりましたね。

梅雨明けの時期からは各地で『夏祭り』が一杯行われると思います。

月遅れの8月お盆が終わる頃までの-ヶ月あまりは週末の夜になると神社や公園で夜店が立ちます。

『豊作を祈る春祭り』『豊作を感謝する秋祭り』などに比べると、夏の祭りは『お 盆』を除いて宗教色が薄れる物が多くなりますね。

『○○町内夏祭り』なんてのも一杯ありますからね。

こうした夏祭りの夜店は子供たちの天下です。

大きく有名なお祭では、露店もプロの香具師・露天商の物になるので子供の財布では思いっきり買い食いしたり遊んだりは出来ません。

きらびやかなプロの露店が並ぶ夜店では子供たちはきょろきょろしてうろつくだけなのですが、手作り夜店では思いっきり参加していますね。

こんな時の子供の表情は平成の子供も昭和の子供あまり変わりはないようです。

違うのは…少なくとも、田舎で変わったのは…子供の絶対的な数が減ったと言うことでしょう。

夜店の場合は、親が車で来る時以外は集まってこられる範囲があまり広くないですからね。

この写真の夜店は、昨夜、木本町三丁目で行われた物です。木本小学校の校区ですが、昭和30年代には1500人にまで達していた児童数が今では100人台まで減っているのですからね。

カメラは フジカST605N+シュナイダー・クルタゴンC35mm

Tags: 熊野市 昭和 モノクロ by **je2luz** | 2008-07-13 11:48 | 熊野

2008年 07月 14日

### 熊野の旅 平成の子供 大きい子は?

昨日の写真でも写っているのは『小さな子供』ばかりです。

夜店とかになると『大きな子供』の数は減るのですが、その傾向はますます強くなっているようです。

子供だましのような夜店では面白く無いのかもしれませんがねえ…



昔だと男の子は面倒くさがって出てこなくても、女の子は中学くらいでも浴衣を着たりしてグループで歩いていた物です。

こんな時に浴衣を着ないと切る時がないですからね。

今回の三丁目の夜店では『浴衣を着た人』に粗品を進呈していましたが、被写体に したいような『浴衣の子』はいませんでしたね。

親が着せれば黙って着る年齢の子供がパラパラと着ているだけでしたね。

「きれいさ」や「かわいさ」を競う気持ちが出る年頃の娘が夜店にきていないってことですね。

もっと大きな『熊野大花火大会』になると、私の家の前も浴衣を着た娘たちが結構 うろつくのですがねえ…

地元だけの夜店・お祭ではスナップは撮り良いのですが、他所からの人間の増える 花火の時は撮りづらいですね。

花火大会の通行人は暑さと疲れで殺気立って居ますからね。

Tags: 熊野市 熊野大花火 モノクロ by je2luz | 2008-07-14 10:21

2008年 07月 15日

## 熊野の旅 平成のおじさん

夜店の舞台回しは『おじさん』『おばさん』がやっています。

『商店主』と言うことなのですが、商店がどんどん減るので、残った商店主の負担がどんどん増えますね。



この三丁目には『熊野商工会議所』があります。おかげで、その協力ももらえるので、職員数名が出てくれています。

隣りの二丁目からも応援に来てくれています。

にしても・・・

この『おじさん』たちも年をとって来ています。

この人たちが『昭和の子供』だった頃なら、とうに『ご隠居さん』の年ですね。



上の写真と下の写真の商店主さんは同じ世代です。子供も同じ世代で、熊野市木本町本町の商店としては珍しく『跡継ぎ』が居ます。

昭和の中頃の高度成長期からは、『当代限り』の店がどんどん増え、それを決断した当時の中堅商店主が老齢化するとともに、どんどんと閉店する店が増えて行ったのです。

Tags: 熊野市 昭和 モノクロ by je2luz | 2008-07-15 10:55